

## ■国際文化学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
比較文化論	文化の一つである宗教をとりあげ、比較宗教学の視点から、私たちの周囲にあるさまざまな宗教について学ぶ。私たちの周囲にある宗教を学ぶことは、私たち自身や私たちの文化を見つめることでもあり、その一方、世界各地で営まれる宗教を学ぶことは、異文化の理解につながる。この授業での到達目標は、受講者が宗教の基礎知識を習得することであり、それによって受講者が自分自身や自分の文化を見つめる視点、および世界の文化を見る際の視点を獲得することが期待される。	川上 新二
文化人類学	私たちは文化(生活様式)をもって暮らしており、また世界各地ではさまざまな文化が営まれている。この授業では、世界のさまざまな民族や社会で見られる文化の中から婚姻や家族、親族、信仰をとりあげ、文化人類学による文化の見方を学ぶ。この授業の到達目標は、受講者が世界のさまざまな民族や社会を理解するために文化人類学が提出してきた見方、考え方を理解することであり、それによって文化人類学による文化への接近方法を理解することが期待される。	川上 新二
日本文化論	本講義は、日本人としての自分をどれほど理解しているかという問いかけから出発し、日本人特有のものを見方や考え方を客観的にとらえ直した上で、日本の精神文化の魅力に気付くことを目的としている。主に文学的・芸術的な立場から日本人の思考や行動の基盤を探ることで、自己の内面への認識を深め、日本の文化の根底に流れる日本人の精神性の魅力に気付いてもらいたい。本講義を通じ、日本人としての自分に誇りを持ってもらえたら幸いである。	村中 菜摘
民俗学	民俗学が対象とする諸分野の中から民俗宗教をとりあげる。民俗宗教とは民衆の間で営まれている宗教や信仰のことを指すが、この授業ではとくに精霊憑依と、それを基盤に展開するシャーマニズムに焦点を当て、比較民俗学の視点も取り入れながら日本本土、奄美・沖縄、韓国で見られる事例について学ぶ。この授業の到達目標は、受講者が民俗宗教としての精霊憑依やシャーマニズムの基礎知識を習得することであり、それを通じて民俗宗教を理解する際の視点を獲得することが期待される。	川上 新二
地域文化論	現代国際社会には、多様な国家が存在し、その中には様々な民族が独自の文化・言語をもって生活している。それゆえ、自分と異なる文化をもった他者の文化を拒絶するのではなく、相互に対等な文化として承認しあう多文化主義という考え方が注目されてきた。多文化主義の理念と政策はカナダを始めとし、ヨーロッパ諸国へも拡大したが、今日、多様な文化を背景にもつ移民の急激な増加が受け入れ国家の市民のアイデンティティを危うくしているとして多文化主義への批判が提起されている。そのような中、新たに多文化共存の理念として注目されているのが、間文化主義である。本講義の目的は、多文化主義及び間文化主義それぞれの理念とその背景を検討し、現代社会の多文化共存の知恵を探ることである。	荒木 陸人
アジア文化論	本講義は、アジアにおける中国、日本、シンガポール、ベトナム、インドなどいくつかの国と地域を中心に、文化の特徴を概説する。まず、それぞれの国における家族を取り上げ、経済成長や社会発展に伴う家族変動の中で、家族形態や家族規範がどのように変化してきたか、また変化しつつあるかを明らかにする。次に中国における人口移動現状と日本における外国人の文化受容を検討する。異なる国の家族、及び社会、文化を比較することによって、アジアの共通性や文化の特殊性を導き出すことを目的にする。定期試験以外、レポートを一回提出してもらう。	王 武雲
中国文化論	本講義は、次に示すとおり、中国の少数民族、食文化、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国の文化に触れてもらう。中国には漢民族以外に55の少数民族があり、それぞれの民族は独自の文化や習慣をもっている。中国における少数民族の社会や文化を考察しながら、中国社会の多様性を検討していく。理解を深めるため、ビデオなどの視覚教材を活用し、講義を進めて行く予定である。毎回感想文の提出を義務づける。感想文の内容を自主学習課題の成果と見なし、成績評価に反映させる。	王 武雲
韓国文化論	韓国の伝統的な婚姻、親族、祖先崇拝などに関する習慣について、日本や中国の場合と比較しながら、文化人類学の立場から考察する。この授業の到達目標は、受講者が韓国の伝統社会の特徴についての基礎知識を習得することであり、それを通じて韓国社会の特色を理解するための視点を獲得することが期待される。	川上 新二
アメリカ文化論	実は、アメリカの文化はさまざまなのです。時代によって、地域によって、多種多様な文化表象と形態があります。また、文化とは何か、その定義自体もかなり難しい批評的営為です。この講義では、これらの点を前提としつつ、現代の日本も深くその影響下にある近・現代のアメリカに見られた文化的思潮を考えてみます。それは(ポスト)モダニズムと呼ばれる文化的思潮です。文学や芸術を通して、モダニズムに特徴的なものを見方や考え方、そして行動・生活の原理などを探求し、アメリカ社会や文化の特徴を考えていきます。	中川 一雄
ヨーロッパ文化論	近代日本はヨーロッパから積極的に学んで国家、社会をつくりあげてきました。しかし、ヨーロッパは様々な国々からなり多様な文化があります。この授業では北方系の文化および社会の歴史、とくにドイツや北欧諸国の歴史に焦点を当て、他のヨーロッパ諸地域と比較しながらヒューマンリズム文化を考察します。題材となる文化は広い意味で理解し、文芸作品、社会や政治文化、宗教や精神生活などにもふれ、ヨーロッパ文化の本質理解に迫ります。	小池 直人
文化交流論	この授業では、文化交流を文化の接触ととらえ、インドで発生した仏教が、インド在来の文化からどのような影響を受けたかを学ぶ。次に、中国に伝来した仏教の中でも前をとりあげ、禅が中国でどのように展開したかを学ぶ。この授業の到達目標は、受講者が、仏教がインドや中国の文化と接触しながらどのように展開していったかを理解することであり、それを通じて文化を考察する際の一つの視点を獲得することが期待される。	川上 新二
日本文学論	本講義は、各時代の代表的な文学作品を厳選して取り上げつつ味わうことで、日本文学の魅力を再発見し、生きていく上での視野を広げることを目的とする。登場人物の内面に共感したり、作品の狙いについて考えたりすることで、今後の生き方やものの考え方についてのヒントを得てほしい。本講義を通じて、日本文学作品を手にとってくれる若者が増えると嬉しい。	村中 菜摘
比較文学論	本講義では、日本文学作品の特質を、これに影響を与えた中国文学との「比較」から読み解いてゆく。扱う日本の文学作品は、中国故事の翻訳物語集『唐物語』(12世紀後半成立)に収められた、玄宗と楊貴妃の物語である。『唐物語』と、典拠である中国古典文学作品『長恨歌』『長恨歌伝』『楊太真外伝』に描かれたそれぞれの楊貴妃像を比較・分析することで、日本で形成された楊貴妃像の独自性を探る。物語をゆつくりと味わいつつ、理解を深めるために、楊貴妃を扱った映像として現代の中国ドラマも取り入れつつ進める。	村中 菜摘
国際関係論	本講義では、主として国際関係を考察する上での基本的な理論的視座と、国際関係の歴史の検討を行う。国際社会の基本的な枠組み(主権国家体制)が成立したウェストファリア体制から、二つの世界大戦、冷戦、及び今日の世界情勢までの検討を行う。	荒木 陸人
国際協力論	現代国際社会では、地球規模で取り組むべき課題が数多くある。中でも、南北問題に代表される途上国の貧困問題、途上国の基本的人権の抑圧、地球温暖化に代表される地球環境問題、内戦及び地域紛争の防止や紛争後の復興支援である。それゆえ、本講義では、開発援助、人権保護、地球環境問題、平和構築の4つの分野から国際協力の在り方を検討する。	荒木 陸人
異文化コミュニケーション	この授業では、異文化コミュニケーションを、異文化との出会いと異文化の理解に関する問題ととらえ、文化人類学や宗教学が異文化をどのようにとらえ、理解しようとしてきたのかについて学ぶ。この授業の到達目標は、受講者が、文化人類学や宗教学が異文化をどのようにとらえようとしてきたかを理解することであり、それによって異文化とかわる際の自らの立場を考える能力を獲得することが期待される。	川上 新二

## ■国際文化学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
情報社会論	情報技術の著しい進展に伴い、現代社会の生活形態は大きく変化してきている。それは現代の社会システムにおいて、光と影の部分を作り出した。その光の部分とは何か？影の部分とは何か？を具体例を挙げながら解説する。また、私たちのメディアのつきあい方や人間関係のあり方はどうあるべきかを考える。授業では視聴覚教材や近年の新聞記事を用いて、具体的な事例を見ながら現代の社会システムがどのように情報化されているのか、情報化により現代起きている問題点を整理していく。	木村 充位
英会話Ⅰ	本授業では、実践的な会話練習を行うことで、英語コミュニケーション能力を養成する。テキストは、海外旅行の際に遭遇する会話の様々な場面を取り扱った『Fly across the borders—本当に使えるトラベル総合英語』を使用する。上記のテキストでの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん、英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。	荒木 隆人
英会話Ⅱ	本授業では、前期に引き続き実践的な会話練習を行うことで、英語コミュニケーション能力を養成する。テキストは、『Fly Across the Borders—本当に使えるトラベル総合英語』を使用する。上記のテキストでの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん、英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。	荒木 隆人
英会話Ⅲ	マザーグースソング等を読み、音のつながりを養いつつ英米文化に触れて日本語から英語の世界に入り、毎時書く英文日記を基にペアで会話練習をします。英文日記を発展させて各自の日常生活、家族、友人、住んでいる地域、将来の仕事、世界のニュースなどについての自分の思いを英語で話せるようにテキストに沿って学んでいきましょう。またPhonicsで、英語音の確認をします。	柴田 達子
英会話Ⅳ	英会話Ⅲで学んだ事をさらに発展させた会話練習をテキストに沿って学びます。また日本について(季節、行事、習慣など)、英語で話せるようにしましょう。毎時のソング、チャンツで音のリズムを養い、英文日記のwriting and telling の後テキストに入ります。	柴田 達子
初級中国語Ⅰ	外国語の学習は、単に情報獲得の道具を得るためだけでなく、その言語の背景にある人々の文化の理解も重要である。従って本授業は中国語の発音、基礎的な文法知識を身につけて、中国の文化や習慣に触れながら、簡単な会話ができることを目指す。テキストに沿って、発音練習、文法の説明、練習問題の解答。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行うから、小テストの準備も授業の一部と考えてください。	王 武雲
初級中国語Ⅱ	前期で学習した中国語の基礎の上に、中国語の基本的な表現力を向上させる。後期は会話に重きを置いて進めていくが、基本的な文法や文型を理解したうえで、初級レベルの中国語を話すことができるようになることを目指す。前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した本文についての小テストをする。少しずつ中国語の会話ができるようになってきて楽しくなるから、前期よりさらに頑張してほしい。	王 武雲
中級中国語Ⅰ	中国文化を題材とした各本文を正しくきれいに読めることを目指し、その文章に出てくる基本語彙、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の読解力の向上をはかる。中国の歌を歌ったり、今の中国の姿を映像で見たり、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。2回一課のペースで授業を進めていく。	莫 全芬
中級中国語Ⅱ	中国文化を題材とした各本文を正しくきれいに読めることを目指し、その文章に出てくる基本語彙、熟語、文法の要点など留意しながら読み、書き、暗記することによって、中国語の読解力の向上をはかる。中国の歌を歌ったり、今の中国の姿を映像で見たり、中国語と中国文化に関する理解を深めていく。2回一課のペースで授業を進めていく。	莫 全芬
応用中国語Ⅰ	中国語で自分が言いたいことを言ってみよう、中国語検定を受けてみたい学生を対象に、中国語検定試験の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。中国語ミニ発表機会を2回用意する。	莫 全芬
応用中国語Ⅱ	中国語で自分が言いたいことを言ってみよう、中国語検定を受けてみたい学生を対象に、中国語検定試験の過去問題を資料として使用する。解けなかった問題をわかりやすく丁寧に説明し、中国語の基礎力、応用力の向上を図る。前期と同じように最後に中国語ミニ発表機会を用意する。	莫 全芬
初級中国語会話Ⅰ	本授業は、正しい発音で簡単な日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う予定。具体的に、文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。平均1課1回のペースで進めていく。	莫 全芬
初級中国語会話Ⅱ	本授業は、正しい発音で簡単な日常会話ができることを目標とする。授業方法は講義を中心としながら、個人指導も同時に行う予定。具体的に、文法、本文などの解釈の後、個別に発音のチェック及び練習問題などを通じて授業を行う。平均1課1回のペースで進めていく。	莫 全芬
中級中国語会話Ⅰ	この授業は、1年生で勉強した中国語の発音、基礎文法知識を高めて、簡単な会話とヒヤリング能力を身につけることを目指す。テキストに沿って発音練習、文法の説明、練習問題の解答を行う。授業ではなるべく多くの学生に当てて、中国語の発音練習と会話練習をする。本文会話の暗記や翻訳練習も毎回行うので、覚悟を持って臨んでほしい。また、毎回、前回の授業を復習する意味で、授業の最初に小テストを行う。教科書の内容以外に中国語検定試験の過去問題を使って、練習する予定である。中国の歌も挑戦してもらおう。	王 武雲 莫 全芬
中級中国語会話Ⅱ	後期の授業は、基本的に文法や文型を理解したうえで、ヒヤリングと話す能力に重きを置いて進めていく。中国語で簡単なコミュニケーションができるようになることを目指す。前期と同じように、毎回、前回の授業で学習した会話の暗記テストをする。使用する教科書には中国の文化や中国人の習慣などについて書いた内容があり、中国語を勉強しながら、中国の文化や社会にも触れて行く。また中国の映画を鑑賞する予定である。	王 武雲
韓国語Ⅰ	韓国語の入門や初級レベルの書き、読みを中心とする基礎的な能力を身につける。	金 基淑
韓国語Ⅱ	韓国語の簡単なスキットを通して文法や表現を勉強する。また、韓国の文化や習慣なども学びながら簡単な会話ができるようにする。	金 基淑

## ■国際文化学科 専門教育科目 授業概要

科目名	授業概要	担当者
韓国語Ⅲ	韓国語Ⅰ、Ⅱの学習の上に、基本的な文法事項を中心に学習する。受講者が、韓国語の基本的な文法事項を習得し、韓国語による基本的な表現ができるようになることを目標とする。	川上 新二
韓国語Ⅳ	韓国語Ⅲの学習の上に、基本的な文法事項をさらに学習する。韓国語の基本的な文法事項のさらなる習得と、韓国語による基本的な表現がさらにできるようになることを目標とする。	川上 新二
情報処理概論	現代社会において、コンピュータや情報通信は欠かせないものとなっている。本講義では、コンピュータとネットワークの本質やセキュリティなどの脅威とその対策を理解することで、コンピュータ・インターネットにかかわる基礎的、概念的な常識を身につける。	松浦 康之
情報処理演習Ⅰ(表現)	表作成、図作成、オブジェクトの埋め込みなどワープロソフト(Word)を使った実用的文書作成の方法を学ぶ。さらに、ホームページ作成による情報発信の仕方学ぶ。さらに、プレゼンテーションソフト(Power Point)を使って、効果的な発表方法を学ぶ。また、文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催するワープロ検定1級、ホームページ作成2級の資格取得を意識した演習も行う。	木村 充位
情報処理演習Ⅰ(関数)	関数機能、データベース機能、マクロ機能、グラフ機能など表計算ソフト(Excel)の実践的活用法を学ぶ。情報処理技能検定(表計算)1、2級レベルの到達度を目指すとともに、マクロによる自動処理の便利さに触れて、プログラミング学習への動機づけをしたい。	松浦 康之
情報処理演習Ⅱ(応用)	1年後期の情報処理演習Ⅰで学習したことを基礎にした実用的な文書作成やホームページ作成について学ぶ。また、財務関数など表計算ソフト(Excel)を使った事務の効率化について知る。特に文部科学省後援の日本情報処理検定協会が主催する文書デザイン1級・2級レベル、ホームページ作成1・2級レベルの資格取得を意識し、基礎的な設定から高度な設定までを順を追って解説する。	木村 充位
情報処理演習Ⅲ(発展)	本演習では、データベースソフト(Access)を使って、システム構築の初歩を学ぶ。また、プログラミング(VBA, Visual Basic for Application)の初歩を学んで、作業の効率化について学ぶ。情報処理技能検定(データベース)2級レベルの到達度を目指す。	松浦 康之
日本語表現法Ⅰ	ことばの4機能である「読む」「書く」「話す」「聞く」のうち、本講義では「書く」ことを中心に据え、文章表現を磨くことを目的とする。日本語の特質、書きことばの特質を客観的に認識し、実際に文章を書いてみることで、各場面にふさわしい表現を身につける。実際にさまざまな表現やいろいろな種類の文章に触れ、ことばの選択に気を配りながら作文能力を向上させる。	村中 菜摘
日本語表現法Ⅱ	本講義では「話す」「聞く」こと、および、社会人として不可欠な敬語を実践的に身に付ける。敬語は実際に使用しなければ上達しないため、積極的に用いる機会を設けることで、慣れと運用能力の上達を図る。加えて、緊張する場に身を置いた際にも、伝えたいことを明確に伝えられる話の構成技術を修得する。人前で話すことが苦手な方も自信が付き、積極的にになれるよう指導する。	村中 菜摘
現代国際事情	最近のテレビや新聞のニュースを賑わせた国際問題として、シリア内戦、ウクライナ民族問題、スコットランド独立住民投票、カタール・ニヤ独立住民投票などがある。これらは、暴力を伴うものも、伴わないものもあったが、いずれも異なる文化、言語をもつ集団同士の紛争、いわゆる民族紛争問題である。本講義では、冷戦以後の主要な国際問題となっている地域紛争、民族問題を事例別に歴史的背景を検討した上で、その解決の可能性を探ってみたい。	荒木 陸人
国際経済論	地球規模で経済が繋がるようになり、グローバルゼーションという言葉が自然に聞かれるようになりました。また自由貿易協定(FTA)や環太平洋パートナーシップ協定(TPP)など、国際取引をさらに促進させようとする協定も活発に議論されています。しかし、イギリスのEU離脱(ブレグジット)に代表されるように、近年では急速な自由化に懸念を抱く考え方も出てきました。そして依然として人々が享受する豊かさは国際的に大きな偏りがあります。本講義では、様々な国について考えながら、国際的な経済の繋がりと豊かさについて考えていきましょう。	松葉 敬文
人間関係論	人間は社会の中に生きる存在である。多様な人間行動は、いかに社会と関わって形成され、また影響されるのか、更にはいかに社会を形成していくのか。家族、地域、学校、職場、公的空間における人間行動を、主に心理学的観点から分析・解説する。夫婦関係や親子関係、地域での子育てや高齢者の見守り、教師と児童・生徒関係、学級集団、友人関係、上司一部下関係やリーダーシップ、生涯学習と人間関係、集合行動・群衆、マスメディアと人間関係、ソーシャルネットサービス(SNS)と人間関係、老年期の人間関係を取り上げる。この講義を通し、人間行動の多様性や、人間と社会の関わりを理解する。	宮本 邦雄
観光論	「21世紀は、観光の時代である」と言われます。人間が人間らしく生き、人生を充実させていく上で、観光は必要不可欠であります。観光にかかわる基本的な事柄をふまえ、観光ビジネスの特性と観光ビジネス分野で起きていること、そして今後の展望について学習するとともに、観光にかかわる人々、観光によって得ることができるもの、観光を充実させる上で必要な事柄についての理解を深めます。講義では、観光に密接不可分に結びついている、歴史・文学・美術・音楽・歳時を織り交ぜながら、観光の楽しさを学んでいきます。	高松 正明
ホテル論	時代の変化がホテルを変える、またホテルとして変えてはならない普遍のホテルサービスがある。現代から未来を予測し、今行われているホテルの基本・実務サービスの現状と対策をお伝えしつつ、社会におけるホテルの価値観を講義の中で学生に考えていただけるものにしてゆきたい。	豊田 哲雄
専門演習	専門演習に関連したテーマについて、専任教員の指導のもと研究に関する知識を身につける。学生自ら文献調査を行い、問題を発見し、分析・解析していく能力を養う。また、口頭発表の仕方、論文・レポートの書き方を学ぶ。ただし、情報系の専門演習では、論文・レポートは書かず、プログラミングについて学ぶ。さらに、卒業研究へ向けての動機付けを行う。	各担当教員
卒業研究	学生自ら問題意識を持って、自分のテーマを研究し、卒業論文または卒業作品を作成する。また、各担当教官のもとで卒業論文発表会または卒業作品発表会を開催し、人前で研究の成果を発表する。	各担当教員